

ROTARY CLUB OF

KANAZAWA-NORTH



金沢北ロータリークラブ

例会日：木曜日 12:30～13:30

例会場：卯辰山・ホワイトハウス

事務局：金沢市尾山町9-13・金沢商工会議所

TEL <0762> 22-2525

会長：大場勝雄 幹事：桜井健太郎

情報委員長：米沢修一

1982・3月25日 第212号

「デザインについて」

バルデザイングループKK

代表取締役 大場 吉美氏



某百貨店の専務さんが「経営とはデザインであり、デザインとは経営である」といわれました。一枚のポスターをつくるにしても、アピールの対象によって図形や色が異なりますが、アピールの対象を決定するには営業的センスが必要であります。ところで営業の最終決定者は社長、即ち経営者であります。

そこで営業、即ち経営を知らなければ、デザインも出来ないのです。

したがって、かつて図案といわれ、何か適当なものを書きなさい、といわれていた時代と、現在のデザインは全く異なるのです。

デザインと言っても、グラフィックデザイン(印刷広告等)、インダストリアルデザイン(商品開発)、ファッションデザイン(服飾)、或はインテリアデザイン(室内装飾)等の分野に分ける事ができますが、いずれにしてもデザインは科学性を持った、経営者の感覚を持たなければ展開が出来ない仕事であり、デザイナーはそのようなノウハウを展開する職種であります。

ところで、かつての日本における貴族文化や町民文化においても、目に見えないもの、即ちノウハウに対しそれ相当なる価値が認められていましたが、物質文明が発達するにつれてノウハウの価値が忘れ勝ちになっておりました。

医師の報酬は薬より技術に重点を置くべきであると論議されておりますが、目に見えない技術に高い報酬を支払う事は、当然であると考えています。又会社経営は、社長の努力によって蓄積したノウハウにより展開されている訳ですが、社長の給料が高いのはこのノウハウに価値があるからだと考えております。

先年の日本海博で石川県でもデザインの必要性が或程度認識されましたが、最近においては、石川県デザインセンターを作ろうという機運があり、一方、金沢 400年祭を記念して国際的デザイン展も企画されており、デザインの社会における位置づけが正確に認識されつつあり喜んで居ります。

—金沢北RC例会講話より— (文責 中村三次)

京都洛北RCとの友好事業 「少年サッカーチーム京都派遣」

去る3月13日金沢北RCと京都洛北RCとの友好提携による今年度第一回の少年サッカー交歓試合が行なわれた。

金沢より大徳サッカースポーツ少年団16名、金石サッカースポーツ少年団15名、森本サッカー少年団15名の合計46名と指導員及び父兄7名、金沢北RCより下村義明社会奉仕委員長、桜井健太郎幹事、小間井宏尚友好委員長、橋場幸一友好副委員長、浅田豊久友好委員、木下和吉地域開発副委員長、高島菊丸親睦委員の7名が参加。2台のバスにそれぞれ分乗し、父兄多数の見送りを受け午後2時出発。一路京都へ……。予定の7時前に宿泊場所養福寺会館に到着。京都洛北RCの得田会長をはじめ多数の会員の皆様、お世話をしていただく自治会の方々の歓迎を受けた。

宿泊した養福寺は、前方に霊峰比叡山を望み、北は大原寂光院三千院へ、西は岩倉と国際会議場につながる八瀬の里に位置した景勝の地にあり、施設は自然の静かな環境で子供達にとっては、最高のところで由緒あるお寺であった。

受け入れ体制など随所に簡素の中にも気くばりした心温たまる歓迎を受けた。特に得田会長をはじめパスト会長、幹事及び理事経験者と訪問に対する姿勢にも当金沢北RCも一考するに十分な感があった。

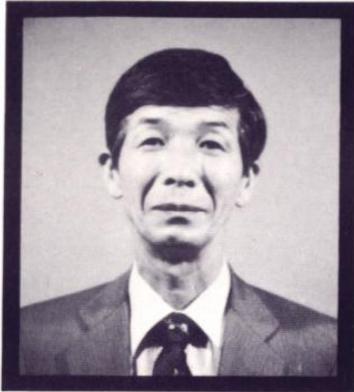
14日午前8時快晴の中にキックオフ、予定通り試合を消化し再会を固く約束し、全員無事金沢に到着。友好訪問の実を十二分になしえ、充実した1泊2日の友好訪問であった。

試合結果 1. 森本 1-1 上高野 4. 金石 2-1 上高野
2. 金石 0-1 洛北 5. 森本 0-0 大原
3. 大徳 0-0 大原 6. 大徳 1-1 洛北



「中西君を偲んで」

土原 一二



いつもの腰痛とはちがうぞ。感冒気味で熱があり、心臓がひどく弱っている。大事をとって入院加療してはといて、金沢医大附属病院のCCUへお送りしたのは、3月8日(月)の夕方であった。というのは心電図の様相が余り良くなく、チアノーゼが強かったから。二・三日も静養したら好転するだろう。否好転してもらわないと困ると心から回復を祈っていた。11日(木)の例会に、桜井幹事から中西君の病気のことが、会員諸君に報告され、その後の、理事役員会には、全治2ヶ月の急性心筋炎の診断書が重ねて発表された。ところが翌12日(金)の朝早く、悲しい訃報を聞いた時はしばし呆然として、一日中何も手がつかない状態だった。一日どころか数日間は、中西君の元気な姿が思い出されて、悲しみの連日

だった。中西君を奪って行った一陣の魔風がほんとに憎らしかった。

昨年7月、本岡君と私が推薦人や保証人となって、メンバーの一人となった。爾来、例会は申すに及ばず、炉辺会合その他の行事に熱心に出席されて、ロータリーに強い情熱を注いで居られた。特に昨夏の早朝野球には、鳴和フードセンターチームを引き連れて、専務自らの陣頭指揮で、惜敗はしたが、来年は頑張るぞの聲が、今も耳に残っている。12月末の夫人同伴の夜間例会でも、嬉しそうに得意な演歌を上手に歌っていた。バスも殆んど通らない凍てつく夜の炉辺会合のことや、同時入会の笠間君の退会を聞いて淋しいね……等 よく私の診察室で話し合ったのもつい最近のことだった。4月上旬は新入社員の指導教育のため大変忙しいが、何とかして先生主宰のI.G.F.には出席したい。とやさしく私に云ってくれたのも、死の数日前のことだ。

次から次と思いはつきないが、ほんとに惜しい男を失ったものだ。残念だ。当クラブの損失もさることながら、会社鳴和フードセンターにとっても大変な損失だろうと思う。実兄中西茂社長の有力な片腕となって、会社経営、社員教育にと全力を打ち込んでいたのだから。御家族は奥様と九州大学工学部在学の御長男を初めとして、二男一女の理想的な御家庭で、一家の大黒柱を失われた皆さんの心中は察するに余りある。お文さんの「あしたに紅顔ありて、ゆうべには白骨となれる身なり云々」の言葉が今ほど胸に沁みる時はない。

全く今度という今度こそ、世のはかなさをしみじみと強く感じたことはない。あながち年のせいばかりではあるまい。

花咲く春を待たないで逝った中西君を偲んでいる私には、今はただ故人の御冥福と御遺族のおしあわせを蔭ながらお祈りする次第です

合 掌

理事會報告

3月11日(木) 石亭にて
出席者 17名

■5RC合同役員会報告

- 加賀中央RC認証状伝達式お祝金の件
各クラブ2万円
- 現代美術展後援の件
15,000円。継続事業なので今年も行なう。
- 善行生徒表彰の件
各RC2万円の負担。継続事業として次年度から予算化するかどうかは各RCにまかせる。
- 加賀中央・射水RC認証状伝達式の件
- 加賀中央RC出席者(4月25日)
大村、大場、桜井、中村(省)、岡田、本江、小林、市川、土原
- 射水RC出席者(4月4日)
桜井、上田、清水、米沢、土原

■各委員会報告

- 拡大 退会会員 笠間正夫君、米沢繁男君
- 国際奉仕 韓国南光州RCとの友好提携の件
今年度の事業とするか、次年度の事業として申し送りするか未定。
- 職業奉仕 女子球技大会、卓球はシングルス、バトミントンはダブルス。混合あり。
- 情報 会報に載せる原稿を会員にお願い致します。
- 友好 「少年サッカーチーム京都派遣」出席者
下村、桜井、浅田、橋場、小間井、木下、高島
- その他
- 依会員1ヶ月の病欠。中西会員2ヶ月の病欠。
- 10周年の原稿、メ切を再度に延ばして来たが、3月中には必ず提出していただく。原稿が集まり次第実行委員会を開催の予定。

